

提案大学

東海国立大学機構

連携大学

名古屋工業大学

EPOCH

先端研究基盤刷新事業

# EPOCH 東海国立大学機構 | コアファシリティ2.0

技術職員によるボトムアップ型経営で、研究者の時間の確保と持続性のある研究環境の実現

Hub : TICRAFT

Edge : 名古屋工業大学

参画機関18機関

## ■ 最終目標

若手・研究者が個々に機器を買わずに  
最適な設備・専門人材・データへアクセ  
スできる研究環境を実現

コアファシリティ1.0  
機器共用中心  
(これまでの取り組み)

→ コアファシリティ2.0  
研究基盤経営  
(未来型機器共用)

Hub  
Edge ↔ 参画機関 双方向連携モデル

### Hub : TICRAFT

- ・共通方針・PF・投資設計
- ・高度技術専門職の雇用・育成
- ・TII連携：機器開発・受託実験・収益化
- ・ARIM/BINDS/SINET連携
- 拠点施設：LYKEION棟  
(名大東山キャンパス)

### Edge : 名工大

- ・先端計測・受託実験の現場
- ・工学・産学連携を実装
- ・メーカーデモルーム拠点化
- ・技術人材の能動的確保・育成

### 参画機関 (企業・大学等)

- ・相互利用・共同研究
- ・機器開発実証へ参加
- ・産業界・公設試・大学等

## 3年後・10年後の成果指標

40-50%  
R10 共用化率

90%超  
R17 捕捉台数共用化

800件/年  
R10 学外利用  
・受託解析

1,600件/年  
R17 学外利用  
・受託解析

+5,000万円  
R10 外部資金  
・利用料収入

6+2名  
R17 高度技術専門職

研究機器を「所有」から「利用」へ、研究基盤を「共用」から「経営」へ  
東海地域の連携から日本の研究基盤の一翼を担う

## 実現に向けたロジック

### 1. 共通ガバナンス

TICRAFTを司令塔に、設備・人材・データの  
循環を地域で見える化。機構長直轄で予算  
・人事・設備を一体管理

### 2. 研究支援を高度化

CFA/CFC/高度技術専門職（博士人材）  
が測定から受託実験・共同研究へ接続。TII  
連携で収益化

### 3. AI・自動化でデータ創出

オートメーションラボ・国産ロボット開発（デンソ  
ーウェア×堀場製作所）・ARIM/SINET  
連携

### 4. 収益を再投資・自走型経営

利用料・受託・権利収入→設備更新・専門  
職雇用へ循環。交付金依存からの脱却

R8：体制・ルール整備

→ R9：AI・自動化・試作稼働

→ R10：基本モデル完成

→ R11-17：全国・国際展開／自律雇用／国産機器供給

提案の核心：TICRAFTを「設備を置く場所」から、意思決定・研究支援・収益循環を担う研究基盤経営体へ